

下田歌子文書(三)

— 翻刻 —

〔女子農芸学校設立趣旨〕
女子農芸学校施設目論見書

奥島 尚樹

実践女子大学・実践女子大学短期大学部図書館が所蔵している、「下田歌子関係資料」の中から、「女子農芸学校設立趣旨」(資料1)および「女子農芸学校施設目論見書」(資料2)を翻刻する。本文書に記載される女子農芸学校は具体化することがなかったため、この文書も公にはならなかったが、内容には下田先生の女子教育への考え方が熱く語られている。

〔凡例〕

- 一、実践女子大学・実践女子大学短期大学部図書館所蔵下田歌子関係資料を底本として翻刻する。
- 二、丁は、墨付を以って数え、丁移りは」として示し、その下の()内にオ(表)またはウ(裏)と省略し、片仮名で記す。

- 三、翻刻は、原則として底本のままとし、漢字の旧字体はそのままとした。不審の箇所に関しても、みだりにこれを改めることはしていない。
- 四、句読点、読み仮名(ルビ)、踊り字なども原則として可能な限り忠実に生かしている。
- 五、本文は所々に加筆修正されているが、訂正後の文章のみを翻刻に反映している。
- 六、本文に記載がなく、後人が目録作成等にあたり付記した情報等については、日本目録規則に準拠し「」を使用し表記している。

刻
 下社會の趨勢が、男女を問はず、都市
 を論ず、勃然として實業教育を記載するに至
 り、
 蓋し、過去数十年間の教育の結果が、寧ろ口の
 人眼の人耳の人を伴ふ事多くして、却つて手の人
 足の人を伴ふ事少かりし故に、事一度起らんと
 すれば、議論自出、甲唱乙駁之を去る者多くして、
 之を為す者ハ少なり、雖口たんと事を欲するの徒類
 多にして、牛尾たるに甘んずるの輩は、希有なるに
 至り、田園は荒蕪に屬すれ共、顧る者稀に都市
 人を歸すとも、猶雲の如く群り集ふ、是を北米
 最南府の為政者も、大率其の實業家實績者なり

刻
 下社會の趨勢が、男女を問はず、都市
 を論ず、勃然として實業教育を記載するに至
 り、
 蓋し、過去数十年間の教育の結果が、寧ろ口の
 人眼の人耳の人を伴ふ事多くして、却つて手の人
 足の人を伴ふ事少かりし故に、事一度起らんと
 すれば、議論自出、甲唱乙駁之を去る者多くして、
 之を為す者ハ少なり、雖口たんと事を欲するの徒類
 多にして、牛尾たるに甘んずるの輩は、希有なるに
 至り、田園は荒蕪に屬すれ共、顧る者稀に都市
 人を歸すとも、猶雲の如く群り集ふ、是を北米
 最南府の為政者も、大率其の實業家實績者なり

【資料1】「女子農芸学校設立趣旨」(実践女子大学・同短期大学部図書館蔵)

十数市、若のり、
 女子農芸学校施設目論見書
 一 修業年限、三年トス
 二 收容生徒数、百五十名トス
 三 費用
 設備費(一次的)貳拾万円
 經常費(年々)壹万七千八百五拾九円
 四 經常費支辨方法及一、所要金總額
 經常費壹万七千八百五拾九円、月費農場收入十三百五十九円、差
 引、壹万六千五百円、預金利率、年五分五厘トシ之、所要之
 基金、拾万、トス、之、設備費貳拾万円、加へ、所要金
 總額、五拾万円トス

刻
 下社會の趨勢が、其の男女を問はず、都市
 を論ず、勃然として實業教育を記載するに至
 り、
 蓋し、過去数十年間の教育の結果が、寧ろ口の
 人眼の人耳の人を伴ふ事多くして、却つて手の人
 足の人を伴ふ事少かりし故に、事一度起らんと
 すれば、議論自出、甲唱乙駁之を去る者多くして、
 之を為す者ハ少なり、雖口たんと事を欲するの徒類
 多にして、牛尾たるに甘んずるの輩は、希有なるに
 至り、田園は荒蕪に屬すれ共、顧る者稀に都市
 人を歸すとも、猶雲の如く群り集ふ、是を北米
 最南府の為政者も、大率其の實業家實績者なり

【資料2】「女子農芸学校施設目論見書」(実践女子大学・同短期大学部図書館蔵)

【資料1】 出納番号 72

「女子農芸学校設立趣旨」(草稿浄書)

一冊。袋綴。二四・〇糎×一六・八糎。白色仮紙表紙。外題「女子農芸学校設立趣旨」(後人封筒中央に打付黒ペン書)封筒及び目録には「女子農芸学校設立趣旨」「大正五年」と記載。原題の「女子実業学校設立案」が「女子農芸学校設立趣旨」に訂正あり。表紙右下にラベルシール(S/72)貼付。料紙は、相馬屋用箋(青枠、瓢箪模様あり)十三枚。四周双辺(一九・七糎×一三・二糎)、有界、每半葉十二行、每行不定字、偶数行に六行書。前後遊紙なし。抹消箇所、書き入れ等多し。記述年記載なし。ただし、出納番号87の資料の記述より、後人により大正五年(一九一六)と推測されている。

別途欄外に記載され、挿入した箇所は《 》で示す。

「女子農芸学校設立趣旨」

⌒(表紙)

刻下社会の趨勢が男女を問はず、都鄙を論せず、勃然として実業教育を謳歌するに至りしは抑も何の故ぞや。

蓋し過去数十年間の教育の結果が、寧ろ口の人眼の人耳の人作る事多くして、却って手の人

足の人腹の人を作ること尠かりしが故に、事一度起らんと

⌒(一・オ)

すれば、議論百出し、甲唱乙駁之を云ふ者多くして、之を為す者ハ少なく、雞口たらん事を欲するの徒類多にして、牛尾たるに甘んずるの輩は、希有なるに至り、田園は荒蕪に屬すれ共顧る者稀に、都市ハ人を餘せども猶雲の如く群り集ふ。是を北米最高府の為政者も、大率其の実業家実践者より起るの例多きに比すれば、寧ろ霄壤の相違あるに驚かざるを得ず。況んや吾が同盟友邦の英國には其の貴婦人等に至る迄奮つて農業工業に従ふが如き、刻下祖国の安危興敗に頻する秋なりとは云へ。又以つて平時心身の鍛練之に耐ふるの素養あるに非れば、如何ぞ、一朝にして、能く斯くの如くなるを得ん。

⌒(二・オ)

然るに彼等英佛国民は云へり。「吾等過てり矣。今こそ、苦き戦争の實驗によりて、多年享樂の迷夢は醒めたり。立てよ。吾が同胞、忘るること勿れ。血の川を、屍の山を。楯を敷き銃を枕とせし是の心を以つて、平和克復の暁には、実業力行に奮闘邁進せん」と怖るべき哉、彼等が捲土重来の未来。彼を思い

⌒(二・ウ)

先を想へば、斯くも泰平無事に樂む、浦安の國に在りとも、決して醉生夢死して、彼等が日々に何千の生靈を屠り、月々に何億の財寶を失ふ世界の大戦を對岸の火視すべきあらんや。」

《以下、欄外書き込み 挿入》

果たして然らば将来國家の筋骨たるべき子女をして、尚事二當つて、困難に耐ふべき修養を得しめん事こそ刻下の最大急務中の急務なるべし。

然れ共耐へなハ男生に適する方策ハ之を他ニ譲りて、女生の體力智力を養成せん事ニ勉めんと欲す。因つて今は《挿入ここまで》

宜しく青春望み

多きの女子を導きて、彼等が身体を剛健にし、彼等が精神を強固にし、進んで実務に力を用うるを

以つて、唯一の樂みを覚ゆる^レ沾着実堅固なる姿勢を養成せんことは実業

教育を措きて還た孰れるか求むべき。

蓋し、従来女子教育の方面に、実業を専門とし、將た実業を併立して、是に導きたる校舍無きに非ざと

雖も、^レ乃ち^レ弊校も亦實科高女を置けり。

然れ共、是僅かに普通中等教育を授くる高女の孰れ

「(三・ウ)

にも存在する所の裁縫其の他の手藝の如きものか、然らざれば、大率美術的工藝に屬せり。未だ断乎として、國家經濟の原動力たる、実業其の物を授くるには非ざるなり。偶ま、養蠶、製綿の如き専門的に授くるはあれ共、吾が男子の修むるが如き、將た独逸婦人のものするが如き、主要教育乃ち数理

「(四・オ)

學藝と併立せるものを、吾等女子の為に設けたるは未だ見ざる所なり。是誠に目下社會の進運に顧みて、頗る遺憾とせざるを得ず」抑も、現今の女子教育は雜然錯然として、其の何れを以つて、是とすべきかを、確定する事能はざるの状況にありとす。勿論其の心育養徳に於いては、當局の示さる、所

「(四・ウ)

ハ、則ち本邦固有の賢母良妻主義を以つてせり。是極めて至当無難の方針たるもとより言を俟たず。弊校も亦創立の最初より、無論日本婦人の坤徳を踏襲せん事を勉めしめて、着実堅固の女子を形成せんとするに汲々たり。

「(五・オ)

然れ共、眼を轉じて、墻外茫漠たる社会を見れば吾人が希望豫想に反して、年少女子の殊に最も秀才と云はれ、優越と稱せらる、輩の、寧ろ靡然と

して、危険なる断崖に走り、或ひは迷津に溺れて、復た救う可からざるに至るを見れば轉た慄然として、其の如何にせば 是を助くるの手段あるべきかを憂慮せざるを得ず。而かも恐くは彼年少

「(五・ウ)

氣鋭にして、才智ある女性の立場より見ば、吾等長老者の穩健にして、安固なる教育界は、寧ろ退歩的因循的にして、甚だ無意味、無氣力、殆ど望み無きの老廢物然たるが如く思惟せらるゝなるべし。彼等は悍馬なり。悍き馬は其背に行する迫力ある統御によつてこれを努めしむるに非れば、寧ろ害あ

「(六・オ)

つて益無きものとなりうるべきハ既に實像の示す所なりとす。然るを彼をして駿馬たらしむるに力を用ひずして無用の長物なりとし、漫然原野に棄て去るが如く、彼等は不都合なり不心得なり。相共に言い難き者なり。縁無き衆生は度し難しと為し、冷

「(六・ウ)

を率ゐて教ふべしと為すは、抑も国家を憂へ同胞を愛する年長者の、安んじて取るべき道ならんや。宜しく氣鋭なる者、才智ある者の入るべき場所、進むべき道を開き置きて、懇ろに是が誘導を

試み、而かも猶吾に背馳して、邪路に走るの時、始めて共に言ひ難しと為し、度し難しとするも蓋し

「(七・オ)

已む事を得ざるものと云ふを得べきか。否其すら眞の司教者は冷然淡然として、袖手傍觀すべきものには非ざらん。乃ち是国家に感化院を設けて、不良の徒と目せられたる者をしも、猶戒飭化育に怠らざる所以なるべし。

「(七・ウ)

昔時武門の教育に、青年の子弟をして、大に武術の鍛鍊に力を致さしめし所以は、治に居て乱を忘れざる底、尚武の主旨を其の重きに置きしが為たる事は勿論なれ共、亦一方には體力を武術に用ひしむる事多き時は、彼等氣鋭なる青年をして柔弱に流れしめず、且品行の乱れを防止する点にも大に奏功せしものなりと云へり。

「(八・オ)

故に吾が○○○○にも園藝工業の各科を設置すると共に、乃ち是の為に要する種々の活動的作業を科せしめて随意随所に、各自の希望に従ひ、其の学藝の進歩に従ひ體力の増進を謀り、合せて是より生ずる所の一種の清き正しき快樂趣味をも深か

「(八・ウ)

らしめんとす。

則ち採集耕耘及び諸物運搬の用として、馬術御する術

自動車、自転車の運用術をも授け、養魚水産の

為には繰船游泳の術をも授け、尚且普通の體

操術に代わるに、女子に適當なる柔道、短銃の射的等をも授け、而して園藝部に於いては、比較的作業の

「(九・オ)

閑散なる早春及び冬季に於いて、學科に屬するものを多く課し、夏秋の季に於いては、専ら作業の實習を授くる等、極めて實際的修行をなさしめ、且又是等の和楽を謀り、温雅の徳性を助長せしめんが為には、正雅なる文学音楽、絵画等も希望に従ひて時間の許す限り之を加へんとす。

「(九・ウ)

又工業部に於いては、農産、水産物の各種を、適宜に乾燥或ひは罐詰となし、是を商業部に移して、販売せしめ、以つて(ママ)維持の補助となすべし。其の詳細は規則書に掲載せり。

要するに吾が(ママ)の学生は、精神堅実、身體壯強にして、能く国家及び家庭の塩あぶらたり膏

たる生産的術科を学んで、以つて公私の富源を増進

「(十・オ)

するの道を努め、かねて、正雅なる娛樂質素なる

生計に安んじ、現代の通弊と謂はる、所の、年少の女子が唯一の憧憬たる彼の力を用ひず心を勞せずして美衣美食をなし、卑猥なる耳目の快樂を

欲するの非望を停め、驅つて以つて心靈的高雅の樂

みを味ひ、力行的正当の富を生むの道を拓かんと

期するに外ならず。是則ち独逸が既に五十有餘

年前より講じて且行ひ来れる名策の一にして、且英國女性も亦是種の事に着手せんとしつ、ありと

伝聞する所のものなり。

若しも妙齡の女性が志す所高雅清廉に在つ

「(十一・オ)

て、且つ其の欲する所実践力行に在りとせば、彼の自然を楽しみ知足に安んじ、不自然を厭ひ虚飾を卑むに至るべきは、もとより言を俟たざるべし。誠に其斯くの如くならば、何ぞ田園の荒廢を憂へん。奚ぞ地方の衰頽を歎かん。而して是の(ママ)の基礎確立するを俟ち

「(十一・ウ)

て、漸次全国に支(ママ)を設け、其の特徴を發揮し研究し、都市町村相呼應して以つて、大成を期せんとするに在り。時は得難くして失い易し。あハレ

同感情の諸君、余が言の莽なるを以つて、其の主旨のある所を抹殺する事無く、進んで斯業の啓発成功に賛助あらん事を冀ふと云爾。

「(十二・オ)

」(裏表紙)

【資料2】 出納番号 87
「女子農芸学校施設目論見書」(草稿浄書)

一冊。袋綴。二四・五糎×一七・二糎。白色仮紙表紙。外題「女子農芸学校施設目論見書」(後人補記、中央に打付黒ペン書) 原題の「女子農芸学校施設資料」が「女子農芸学校施設目論見書」に変更されている。封筒には「女子農芸学校施設資料」「大正五年」趣意書 目論見書 跋 草稿」と記載あり。表紙右下にラベルシール(S/ロ「コの誤り」87)貼付。料紙は、「趣意書」とされる部分は市販の用箋で、「施設目論見書」の部分に私立帝国婦人協会実践女学校用箋を使用。「跋」とされる部分は市販の用箋。全二十三枚。四周双边(一九・七糎×一三・二糎)、有界、「趣意書」每半葉十二行、六行書、「目論見書」帝国婦人協会用箋、每半葉十一行、六行書、「跋」每半葉十二行、六行書。前後遊紙なし。抹消箇所、書き入れ、貼付等あり。記述年記載なし。本資料内の記述から、後人により大正五年(一九一六)の文書と推測されている。別途料紙を貼り付け、挿入した箇所などは《》で示す。

資料2には資料1の内容が含まれ重複している。ただし、一部に異同が見られることから、両方を翻刻する。

凡そ刻下社会の趨勢が、其の男女を問はず、都鄙を論ぜず、勃然として実業教育を謳歌するに至りし事ハ何故ぞや。蓋しその故ハ何ぞや。

他無し。過去数十年間の教育ノ結果が、寧ろ口の人眼の人耳の人を作る事多くして、却つて手の人足の人の腹の人を作る事少かりしが故に、事一度起らんとすれば、

〔(一・オ)〕

議論百出し、甲唱乙駁之を云ふ者多くして、之を為

す者ハ少なく、鶏口たらん事を欲するの徒類多に

して、牛尾たるに甘んずるの輩ハ希有なるに至り、

田園は荒廢に屬すれ共、顧る者稀に、都市ハ人を

餘せども、猶雲の如く群がり集う。是を北米最高

府の為政者も、大率其の実業家実践者より起るの例多きに比す

〔(一・ウ)〕

れば、寧ろ霄壤の相違あるに驚かざるを得ず。

況んや、吾が同盟友邦の英國には其の貴婦人等に至つては、奮つて

農業工事に従ふが如き、刻下祖国の安危興敗に瀕

する秋なりとも云へ。又以つて平時心身の鍛練之に

耐ふるの素養あるに非れば、如何んぞ、一朝にして能く

斯くの如くなるを得ん。然るを彼等英佛両民ハ云

〔(二・オ)〕

へり。「吾等過てり矣。今こそ、苦き戦争の実験によ

りて、多年享樂の迷夢ハ醒めたり。立てよ。吾が同

胞、忘ること勿れ。血の川を、屍の山を。盾を敷き、

銃を枕とせし、是の心を以つて、平和克復の暁にハ、実

業力行に奮闘邁進せん」と怖るべき哉、彼等が捲土

重来の未來。彼を思い是を想へば、斯くも泰平無事

〔(二・ウ)〕

に樂む浦安の国民たりとも、決して醉生夢死して、彼等が日

々に何千の精靈を屠り、月々に何億の財寶を失う世

界の大戦を対岸の火視すべきあらんや。

《以下、料紙貼付 挿入》

果して然らば將來國家の筋骨となるべき子女をして

なお事に当りて困難に耐ふ可き修養を得しめん事こそ大

急務中の急務なる可し。然れども我等ハ男生に

対する方策ハ之を他に譲りて先づ女生の智力や

體力とを養生せんことに勉めんと欲す。

《挿入(ここまで)》

宜しく青

春望み多き女子を導きて、彼等が身體を剛健に

し、彼等が精神を強固にし、進んで実務に力を

用ふるを以つて、唯一の樂しみと覺ゆる迄、着実堅固な

〔(三・オ)〕

る資質を養わせんことは実業教育を措きて連れづれに求むべき。

蓋し從來女子教育の方面に、実業を専門とし、將た
実業を併立して、是に導きたる校舍無きに非ずと雖
も、^(マ)乃ち弊校も亦実科高女を置けり。^(マ)然れ共、
是僅うに、普通中等教育を授くる高女の執れにも
存在する所の裁縫其の他の手藝の如きものか、然ら

「(三・ウ)

ざれば、大率美術的工藝に属せり。未だ断乎とし
て、国家経済の原動力たる、実業其の物を授くるに
非ざるなり。偶ま、養蠶、製綿の如き専門的に授く
るはあれ共、吾が男子の修むるが如き、將た独逸夫人のものする
が如き、主要教育乃
ち数理学藝と併立せるものを吾等女子の為に設けざるハ未だ見ざ
る所なり。是誠に

「(四・オ)

目下社会の進運に顧みて、頗る遺憾とせざるを得ず。
抑も、現今の女子教育ハ雜然錯然として、其の孰れを
以つて是とすべきかを、確定する事能ハざるの状
況に在りとす。勿論其の心育養徳に於いてハ当局の示さるゝ所
ハ則ち本邦固有の賢母良妻主義を以つてせり。是
極めて至当無難の方針たる、もとより言を俟たず。
弊校も亦創立の最初より、無論日本婦人の坤徳を

「(四・ウ)

踏襲せん事を勉めしめて、着実堅固の女子を形成

せんとするに汲々たり。

然れ共、眼を転じて牆外茫漠たる社会を見れば、吾
人が希望豫想に反して、年少女子の殊に最も秀才
と云はれ、優越と称せらるゝ輩の、寧ろ靡然として、
危険なる断崖に走り、或ひは迷津に溺れて、復た

「(五・オ)

救う可らざるに至るを見れば、將に慄然として、其
の如何にせば、是を助けるの手段あるべきかを憂慮せざ
るを得ず。而ども恐くは彼年少氣鋭にして、才智ある
女生の立場より見バ、吾等長老の穩健にして、安固
なる教育界ハ、寧ろ退歩的因循的にして、甚だ無意味
無氣力、殆ど望み無きの老廢物然たるが如く思惟せら

「(五・ウ)

るゝなるべし。彼等は悍馬なり。悍き馬は其背に
汗する迄、力ある統御によつて之を努めしむるに非れば、寧
ろ害あつて益無きものとなり可るべきかな。既に実例の示す所な
りとす。

然るを彼をして駿馬たらしむるに力を用ひずして、無用の長
物なりとし、漫然原野に棄て去るが如く、彼等は不都合
なり不心得なり。相共に言い難き者なり。縁無き衆

「(六・オ)

生は度し難しと為し、冷然として是を排
除し、吾は吾に帰する所の者のみを率ゐて教ふべし

と為すハ、抑も国家を憂へ同胞を愛する年長者の安んじて取るべき道ならんや。宜しく気鋭なる者、才智ある者の入るべき場所、進むべき道を開き置き、懇ろに是が誘導を試し、而かも猶吾に背馳して、

「(六・ウ)

邪路に走るの時、始めて言ひ難しと為し、度し難しとせんも蓋し已む事を得ざるものと言ふを得べきか。否其すら眞の司教者は冷然淡然として、袖手傍観すべきものにハ非ざらん。乃ち是国家に感化院を設けて、不良の徒と目せられたる者をしも、猶戒飭化育に劣らざる所以なるべし。

「(七・オ)

昔時武門の教育に、青年の子弟をして大に武術の鍛錬に力を致させしめし所以ハ、治に居て乱を忘れざる底、尚武の主旨を其の重きに置きしが為たる事ハ勿論なれ共、亦一方にハ體力を武術に用ひしむる事多き時ハ、彼等気鋭なる成年をして、柔弱に流れしかば、品行の乱れを防止する点にも、大に奏功せしものなりと

「(七・ウ)

云へり。蓋し思ひ半ばに過ぐるものあらん。故に、吾が○○○○にも、園藝工業の各科を設置すると共に、乃ち是の為に要する種々の活動的作業を科して、随意随所に、各自の希望に従ひ、其の学

藝の進歩に従ひ、體力の増進を謀り、合せて是より生る所の一種の清き正しき快樂趣味をも深からしめんとす。

「(八・オ)

則ち採集耕耘及び諸物運搬の用として馬術乗る術 御する術自動車、自転車、の運用術をも授け、養魚、水産の爲には、操舟、遊泳の術をも授け、尚且普通の體操術に代ふるに、女子に適當なる柔道、短銃の射的等をも授け、而して園芸部に於てハ、比較的作業の閑散

「(八・ウ)

なる早春及び冬季に於いて、学科に属するものを多く課し、夏秋の季に於いては、専ら作業の実習を授くる等、極めて實際的修業をなさしめ、且亦是等の和樂を謀り、温雅の徳性を助長せしめんが為にハ、正雅なる文学音楽絵画等も希望に従ひて時間の許す限り之を加へんとす。

「(九・オ)

又工業部に於いては、農業、水産物の各種を、適宜な乾燥或ひハ缶詰となし、是を商業部に移して、販売せしめ、以つて○○維持の補助となすべし。其の詳細ハ規則書に掲載せり。要するに吾が○○○○の学生ハ、精神堅実、身體壯強にして、能く国家及び家庭の塩たり膏(あぶら)たる

引き壹万六千五百円ハ預金利率ヲ年五分五厘トシ之ニ要スル
募金參拾万円トス之レニ設備費貳拾万円ヲ加ヘ所要金
總額五拾万円トス

「(十三・オ)

(白紙)

「(十三・ウ)

第一設備費(二時的費用)

イ、建物

種別	坪数	単価	金額	備考
玄 関	四坪	六〇円		
本 校	九五			
教室(四棟)	三〇〇			
講 堂	七二			
実習教室	三〇			
実習監理室、全準備室、収納庫				
農具室、収納室	一一〇			
寄宿舎(洗面所共)	一二五			
家事科教室	一一五			
寄宿舎附属小使室	七五			
蚕室(附属物置井戸舎共)	九四			

「(十四・オ)

小使室(井及厠共)	一四			
倉庫及び物置	二四			
堆肥舎	一八			
実習室附属足洗場(井)	六			
農夫舎	一二			
便所(五ヶ所)	二五、五			
小計	一、〇五、六	六〇円	六三、二二〇、〇〇〇円	

「(十四・ウ)

ロ、敷地

種別	坪数	単価	金額	備考
綿羊舎	一五	三〇円		
肥 溜	六			
雜 舎	六			
渡り廊下	一六二			
小計	一八九	三〇円	五、六七〇、〇〇〇円	
校長住宅	四五	五〇円		
教頭住宅	三五			
教員住宅(三棟)	九〇			
小計	一七〇	五〇円	八、五〇〇、〇〇〇	
建物合計			七七、二九〇、〇〇〇	

「(十五・オ)

種別	金額
校舎敷地	八、四〇〇 四円
教員住宅敷地	七五〇
農場	九、〇〇〇
小計	一八、二五〇 四円
此の反別	
六町五畝歩	七二、六〇〇、〇〇〇
八、其ノ他ノ設備	
表門	二〇〇、〇〇〇
井戸七 <small>(校舎四 住宅三)</small>	七〇〇、〇〇〇
園囲土堤及び生籬(延長三七〇間)	
敷地仕上均し通路砂利敷共	三、七〇〇、〇〇〇
	五、〇〇〇、〇〇〇
排水工事費	二、〇〇〇、〇〇〇
教員住宅柵(八〇間)	五〇〇、〇〇〇
農場設備校内生籬及植樹費	
	一〇、〇〇〇、〇〇〇
竈及煙突装置	五〇〇、〇〇〇
浴槽洗面台洗濯所鉄管装置	
	八〇〇、〇〇〇
雑費	一、〇〇〇、〇〇〇

備考	金額
一ヶ所百円 <small>(ママ)</small> ?	
〃(十五・ウ)	
間口十円? <small>(ママ)</small>	

科目	金額	摘要
第二經常費(年々の費用)		
俸給及手當	八、二〇〇、〇〇〇	
校長年俸	一、五〇〇、〇〇〇	
教頭年俸	一、〇〇〇、〇〇〇	
教員年俸	四、八〇〇、〇〇〇	
	八人一人月平均五十円十二ヶ月分	
書記給料	七二〇、〇〇〇	
	二人一人月平均三十円十二ヶ月分	
舎監加俸	一八〇、〇〇〇	
	三人一人月平均五円十二ヶ月分	
雑給	二、九五三、〇〇〇	
小使給料	五四八、〇〇〇	
	三人一人一日平均五十銭三百六十五日分	
炊婦給料	二九二、〇〇〇	
	〃(十七・オ)	

小計	二四、四〇〇、〇〇〇
二、備品買入費	二〇、〇〇〇、〇〇〇
ホ、豫備費	五、七二〇、〇〇〇
總計	二〇〇、〇〇〇、〇〇〇
	〃(十六・ウ)

常農夫給料 二人一人一日平均四十錢三百六十五日分
 五四八、〇〇〇

雇農夫日當 三人一人一日平均五十錢三百六十五日分
 五〇〇、〇〇〇

校長以下職員勉勵手當 一人一日平均五十錢三百六十五日分
 三三五、〇〇〇 俸給月額二分ノ一

常農夫小使炊婦勉勵手當 一一〇、〇〇〇 日當年額の十二分ノ一
 学校医手当 一二〇、〇〇〇

旅費 五〇〇、〇〇〇
 校費 四、二〇六、〇〇〇

備品費 八〇〇、〇〇〇
 図書費 一五〇、〇〇〇

消耗品費 五〇〇、〇〇〇
 通信運搬費 一〇〇、〇〇〇
 印刷費 一〇〇、〇〇〇

生徒奨勵費 一〇〇、〇〇〇
 実習費 一、八〇〇、〇〇〇

養鶏及綿羊飼育費 三〇〇、〇〇〇
 宿直賄料 一八三、〇〇〇

職員一人一夜二十錢三百六十五日
 小使炊婦ニ於テ二人農夫ニ於テ
 一人一夜各十錢

舍監辨當料 七三、〇〇〇

雜費 一〇〇、〇〇〇

修繕費 五〇〇、〇〇〇
 小破修繕及ペンキ塗裝 五〇〇、〇〇〇

保險料 二〇〇、〇〇〇

校舍火災保險料 二〇〇、〇〇〇

校舍改築基金 一、〇〇〇、〇〇〇

校舍改築積立金 一、〇〇〇、〇〇〇

豫備費 八〇〇、〇〇〇

豫備費 八〇〇、〇〇〇

計 一七、八五九、〇〇〇

〔一七・ウ〕

〔一八・ウ〕

収入(農場)

金五百円 田取穫物売却代

金五百円 畑取穫物売却代

金二百五十円 成繭代

金五拾五円 果実

金五拾四円 綿羊、雜收益

合計千三百五十九円

授業料ハ特ニ見込マズ

〔一九・オ〕

一日二十錢三百六十五日分

〔一八・オ〕

(白紙)

〔十九・ウ〕

〇〇〇〇〇〇設立の主意書及び規則書ハ、余が欧米より帰朝せし當時、則ち殆ど廿年前よりの希望にして且つ今の実践女学校の創立も亦此の一部分たるに過ぎざるものなり。而して、微力匪徳の余ハ單に一部女校を小成したるのみなるに世界ハ、意想外の大戦軍國となれり。若し余が希望の、廿年前に成就せる所ありたらんにハ、各種の物産及び其の製造販売等にも、既に多少の発展を見て、或いハ現今の国家社会にも少しく貢献する事ありしやも知る可らず。然るに、斯かる空前の名声と利益とを、海外に攫取し得べき好時期に際しながら徒らに袖手して 天与の幸福を逸し去りつゝある遺憾を 惟へば、一日も速うに創設成功せまほしけれ共、顧みて

〔二十・オ〕

自己の微力を鑑み、將た又其の責任の強からざるを思いみれば、寧ろ吾が実践女学校開設の当時に倣い、猶其の規模を小にして、己が校一部の事業となし、女子高等実業学部の名のもとに、先理想の一小部分を試み、其の基礎の強固となり、其の信用の確実となるを俟ちて、漸次是が拡張を謀るこそ、誠に安全にして危険無

〔二十一・オ〕

き事たるべき乎。

乃ち公的事业ハ決して一人一代の事業にはあらず、数人数十人の力を俟ち、数代数十代の世を重ねて、然る後に、完成せしむべきものなるが故に、余老齡に達するが為に、漫りに功を急ぎて、若し失敗の跡を万一にも遺す事あらば、後進者同胞の為に

〔二十一・ウ〕

少なからざる 困難を感じしめん事を杞憂するの婆心情を禁ぜざるものあり。是則ち遺憾ながらも、其の規模を小にして、以て安全成る小来を謀らんとす。これ亦有志諸君の一考を煩ハさんとする所なり。 請ふ幸ひに之を諒せられよ。

〔二十二・オ〕

〔裏表紙〕

おくしま・なつき／実践女子大学・実践女子大学短期大学部

図書館 参事

〔二十一・オ〕

